

アルミ缶 リサイクル ニュース

November

11
2016

Vol. 137



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminium Can Recycling Association

東京都中央区銀座4-2-15 塚本素山ビル6階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒104-0061
<http://www.alumi-can.or.jp>

平成28年度は 全国で62校表彰

当協会は、アルミ缶回収を通じて環境学習の支援を行うため、(一社)日本アルミニウム協会の協賛を得て、毎年アルミ缶回収優秀校の表彰を実施しています。今年度は全国で62校を表彰することになりました。今年度の表彰学校は、下記のとおりです。受賞校の皆様、おめでとうございます。また、推薦をいただきました回収拠点の皆様には、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます

平成28年度アルミ缶回収優秀校 (都道府県順)

- 25 加西市立宇仁小学校(兵庫県)
- 24 大田市立大町南小学校(長野県)
- 23 大田市立八坂中学校(長野県)
- 22 豊橋市立豊城中学校(愛知県)
- 21 浜松市立神久呂小学校(静岡県)
- 20 浜松市立船越小学校(静岡県)
- 19 富山市立中央小学校(富山県)
- 18 横浜国立希望ヶ丘小学校(神奈川県)
- 17 清瀬市立清瀬小学校(東京都)
- 16 八王子市立柏木小学校(東京都)
- 15 八千代市立新木戸小学校(千葉県)
- 14 鳩山町立鳩山小学校(埼玉県)
- 13 栃木市立都屋小学校(栃木県)
- 12 白河市立白河第四小学校(福島県)
- 11 小野町立浮金小学校(福島県)
- 10 郡山市立守山中学校(福島県)
- 9 長井市立西根小学校(山形県)
- 8 奥州市立姉妹小学校(岩手県)
- 7 鯉ヶ沢町立舞戸小学校(青森県)
- 6 青森市立沖館小学校(青森県)
- 5 弘前市立青柳小学校(青森県)
- 4 弘前市立常盤野小中学校(青森県)
- 3 弘前市立小友小学校(青森県)
- 2 十和田市立高清水小学校(青森県)
- 1 八戸市立種差小学校(青森県)
- 26 高砂市立阿弥陀小学校(兵庫県)
- 27 上牧町立上牧中学校(奈良県)
- 28 香芝市立三和小学校(奈良県)
- 29 田辺市立本宮小学校(和歌山県)
- 30 田辺市立三栖小学校(和歌山県)
- 31 米子市立彦名小学校(鳥取県)
- 32 浅口市立奇島中学校(岡山県)
- 33 福山市立戸手小学校(広島県)
- 34 美祢市立淳美小学校(山口県)
- 35 小松島市立芝田小学校(徳島県)
- 36 伊予市立北山崎小学校(愛媛県)
- 37 松前町立岡田小学校(愛媛県)
- 38 大洲市立大洲北中学校(愛媛県)
- 39 大洲市立脇川小学校(愛媛県)
- 40 内子町立大瀬小学校(愛媛県)
- 41 佐賀市立城西中学校(佐賀県)
- 42 佐賀市立神野小学校(佐賀県)
- 43 佐伯市立上堅田小学校(大分県)
- 44 佐伯市立上入津小学校(大分県)
- 18 国東市立安岐小学校(大分県)
- 17 筑前町立東小田小学校(福岡県)
- 16 四万十町立仁井田小学校(高知県)
- 15 中土佐町立大野見小学校(高知県)
- 14 阿南市立大野小学校(徳島県)
- 13 長浜市立びわ北小学校(滋賀県)
- 12 甲賀市立甲南第三小学校(滋賀県)
- 11 富士市立富士中学校(静岡県)
- 10 伊東市立池小学校(静岡県)
- 9 沼津市立内浦小学校(静岡県)
- 8 茅野市立長峰中学校(長野県)
- 7 山北町立三保小学校(神奈川県)
- 6 秦野市立上小学校(神奈川県)
- 5 東久留米市立第十小学校(東京都)
- 4 小山市立小山第三中学校(栃木県)
- 3 八千代町立東中学校(茨城県)
- 2 喜多方市立熊倉小学校(福島県)
- 1 釧路市立鳥取西小学校(北海道)

アルミ缶回収優秀校(小・中学校)表彰さまる

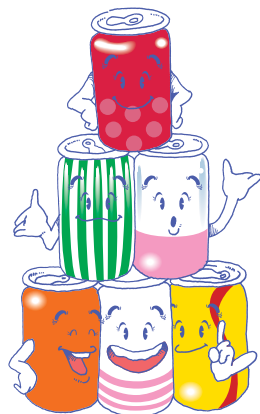
再選表彰校



平成28年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 当協会推薦より財務大臣賞、文部科学大臣賞、会長賞3件受賞

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会(3R推進協議会・細田衛士会長)は、10月の3R推進月間事業の一環として、平成4年度から3R推進功労者等の表彰を行っています。この表彰は3Rの推進に貢献している個人、団体などが対象です。本年度は、当協会が推薦した中で、財務大臣賞に(株)リカーマウンテン、文部科学大臣賞に吉賀町立柿木中学校、会長賞に(株)グリーンシステム、高崎市立倉渕中学校、および横浜市資源リサイクル事業協同組合の3件が受賞しました。10月25日(火)にKKRホテル東京(東京都千代田区)にて表彰式が行われました。

受賞者の活動内容を以下に紹介します。詳細は、3R推進協議会のホームページを参照ください。
<http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/hyoshou>



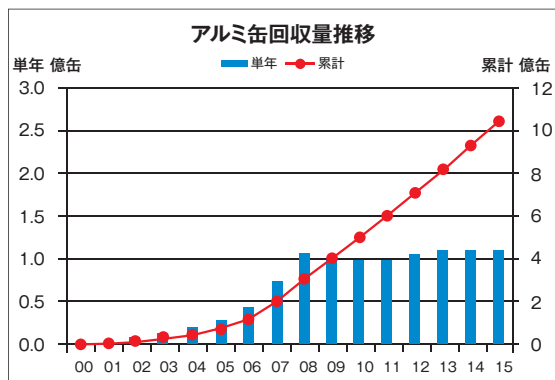
吉賀町立柿木中学校 常岡校長様 賞状授与



受賞された皆さん



めましました。紹介し、啓発普及に努めました。



〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

発行季刊誌「カバタツピ」では、リユース、リサイクルの現場での問題点などを分かりやすく紹介し、啓発普及に努めました。

『レジ袋の削減』については2008年より重点的に取り組みを開始しました。ECOバッグの無料配布を行い、全店でのレジ袋有料化に踏み切りました。京都市、名古屋市、そして滋賀県とレジ袋削減に関する協定を締結しました。率先した取り組みは、今やスーパーなど小売業のレジ袋有料化の模範となっている。レジ袋削減率は当社ではコンスタントに90%を超えるほどの認知に繋がっています。

また、お客様よりお持込み頂いたPETボトルに充填して販売する「焼酎の量り売り」も2004年より2店舗で開始しました。現在では83店舗で実施中のこのシステムは、割安にお求めいただけることで、しっかり定着しています。

『リデュース』

アルミ缶の回収は2000年より開始しました。2015年8月には『累計10億缶』を突破しました。

財務大臣賞

〔株〕リカーマウンテン(京都市)

「江戸の昔より酒屋は循環型社会の要」
 アルミ缶回収累計10億缶達成!

〔リユース〕

1990年の設立当初より、ビール瓶や二升瓶など「空き瓶の有償引き取り」を実施しています。

〔リサイクル〕



アルミ缶運搬



ネットを渡す様子



缶演し機(かばくん)にアルミ缶を入れて缶を潰す

『善循環のサイクル』の「環」としての生徒活動と地域の協力を吉賀町の輪として、より「層深めていこう」としている。この活動を通して、在校生は勿論、入学してくる新入生も含め生徒の心の中に『感謝』の思いを醸成していこうとしています。

『善循環のサイクル』の「環」としての生徒活動と地域の協力を吉賀町の輪として、より「層深めていこう」としている。この活動を通して、在校生は勿論、入学してくる新入生も含め生徒の心の中に『感謝』の思いを醸成していこうとしています。

また、生徒一人一人が一人20軒以上訪問してネットを配りアルミ缶を回収しています。

『善循環のサイクル』の「環」としての生徒活動と地域の協力を吉賀町の輪として、より「層深めていこう」としている。この活動を通して、在校生は勿論、入学してくる新入生も含め生徒の心の中に『感謝』の思いを醸成していこうとしています。

文部科学大臣賞

吉賀町立柿木中学校(島根県)

全校生徒40人!
 生徒一人あたりの回収量は100kg越え!
 『善循環リサイクルに感謝の心』

校区内の環境美化を生徒と保護者が一緒になって取り組もうとするところから元々スタートしました。約10年前、開始当初、行政による分別回収があったが、その回収に生徒と保護者が一緒になってやることにしました。

学校・地域住民・行政・回収業者が一体となり取り組んでいます。特に過疎化が進んでいるが、リサイクルの声掛け訪問により孤立化を防げるようになり『善循環リサイクル』の輪ができました。

全校生徒40人しかいない生徒を6つの委員会に分け、担当顧問の先生と月曜日から金曜日の給食後の15分間、空き缶潰し、袋入れ作業に従事します。

（株）グリーンシステム（山形県）

全国初の民営資源ステーション「みんなが喜びに包まれるリサイクル列車で旅立とう！」

創業者の妻のこんな言葉「家庭の資源ごみの日は月に2回程度。忘れると出せないで溜まる一方。いつでも出せる資源ステーションがあればいいのに」をヒントに今から12年前、初の民営資源ステーション『グリーンステーション』を開店しました。

いつでも誰でも連絡なしに受入ができ、アルミ缶・スチール缶・ペットボトル・新聞・段ボール・雑紙・雑誌・鉄類・非鉄類・機械類全般・衣類など、資源化できるものを全て買い取る店舗です。好評を得て、山形県・宮城県・秋田県に10ヶ所のグリーンステーションを出店しました。リユース品目にも力を入れている。回収時に集まる自転車・タイヤ・農機具・衣類・家電品に関して海外輸出向け業者に販売することで付加価値の向上に努めています。

スーパーやホームセンターなどの店舗向けに、自社開発したアルミ缶買取機『アルミ缶ポスト』を設置し、あらかじめ潰したアルミ缶を10個を5円に還元します。

この他にも様々な事業を展開してきたが、今後もさらなるリサイクル・リユースの新たなビジネスを創造していく予定です。



アルミ缶ポスト



グリーンシステム賞状授与表彰式

3R 推進協議会会長賞

高崎市立倉渕中学校（群馬県）

くはじまりは、昭和44年びん回収及びリユース啓発、アルミ缶回収を通じて人と人の心を育む。

びんの回収は昭和44年から開始し、47年間継続しています。

P.T.Aによる古紙、缶回収及びリサイクル・リユース啓発は、平成18年4月より開始して10年間継続しています。また、平成24年度ドライプスルー方式による回収を行えるように回収場所を整備しました。さらに、生徒会が主体となり、毎月第三週をエコウィークと名付け、登校時にアルミ缶等の資源ごみを持ち寄る活動を行っています。

ミヤマシジミ保護活動や森林保護体験学習での美化活動等の地域と連携した行事においても、資源の有効活用や環境保全に重点をおいた活動を行っています。

1年に1度P.T.A会員や生徒が高齢者世帯の各家庭を訪問し、資源ごみの回収活動をする中で高齢者の負担軽減に繋がっています。



びんのリサイクル風景1



びんのリサイクル風景2

横浜市資源リサイクル事業協同組合（神奈川県）

「学校等アルミ缶もつたいたいプロジェクト」から羽ばたく「子どもと地域を結ぶ心の繋がりを」

「学校等アルミ缶もつたいたいプロジェクト」では、横浜市内の小学校を主として、子ども達が集めてくれたアルミ缶の回収を行っています。回収したアルミ缶は250kgにつき車イス一台と交換することで、ごみ箱に捨てていたアルミ缶も価値のある資源であるということ子ども達に伝えています。

平成14年から開始した当活動も平成28年3月末現在で、述べ106校、10団体、重量では79287kgもの回収を行うことができました。

小学校では、近隣施設への寄贈等も独自で行っており、リサイクルの学びを通じて、地域との繋がりに発展しているという嬉しい相乗効果もありました。

情報誌に感謝状贈呈の様子を掲載し、この活動の拡大を進めたり、独自のチラシを制作、横浜市内の全学校へ配布する等により活動の啓発に努めています。



表彰状される子供たち



プロジェクトチラシ

平成28年度 3R 推進功労者等表彰 受賞お祝い会



経済産業省 山下課長 挨拶

表彰式後、如水会館「桜の間」（千代田区三ツ橋）で受賞お祝い会を開催しました。受賞した5団体の代表者の方々、来賓として経済産業省製造産業局金属課課長・山下隆也様他を迎え、その他報道関係者および協会関係者が出席しました。

冒頭に遠藤理事長より「受賞者の皆様の活動を拝見すると、地域密着、まさに草の根活動であるということが綿々とつづられていきます。この地道な活動が本日の受賞につながったものと敬服するばかりであります。当協会としても微力ながら皆様の活動に対してお助けや励ましができればということでも活動していく所存であります」と挨拶をし、来賓の山下隆也課長は「リサイクルや環境の問題はグローバル化しており、それに対応していくことが必要になっていきます。そのためには、足元のリサイクルをきちんと回していく仕組みを作ることが重要であると考えています。受賞者の方々には地域密着の活動をされてきて、その成果が表彰につながったと思います。今後とも、この受賞を糧に「コツコツと着実な取り組みを進めていただきたい。」と挨拶されました。

施設見学研修会 (株)神戸製鋼所 真岡製造所及びアサヒビール(株)茨城工場



当協会は、3R推進月間に合わせて、毎年「施設見学研修会」を実施しており、本年は10月14日に開催し、神戸製鋼所真岡製造所及びアサヒビール茨城工場を見学しました。当日は、経済産業省、報道関係及び協会会員会社の方々47名が参加され熱心に見学されました。

神戸製鋼所真岡製造所の見学に先立ち、遠藤理事長より「従来、研修会はどちらかというアルミ缶の第二の人生、回収から再生までを中心に見てきましたが、今回は、アルミ缶が生まれる前のお母さんである段階を見てもらい、午後はアルミ缶が大人になって社会に出ていくビールの製造工場で使用される場面を見ていただきます。私自身も興味深いところがあるし、日頃のアルミ缶回収の価値に活かしていけるよう勉強したいです。」と挨拶がありました。

次に経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課 杉本綾美様より「アルミ地金は日本では作られておらず、造るには莫大なエネルギーが必要になります。アルミ缶のリサイクルは重要な役割を担っています。また10月は3R推進月間。これを機に様々なイベントが各地で開かれるので、3Rへの理解を深めていただき、各主体間で連携して情報交換を行うことで、3Rの推進に、より一層取り組んでもらいたいです。」と挨拶があり、また、谷川正樹・真岡製造所長は、「幅広い用途に我々のアルミ板を使用いただいております、約半数は皆さんにご愛顧いただいているアルミ缶になります。いろんなアルミ板を造るのに対応した設備を兼ね備えるなどスタンダードな圧延工場と認識しています」と説明がありました。

アサヒビール茨城工場



アサヒビール茨城工場

アサヒビール全8工場の中で最も生産量の多い工場。ビールのほかにアサヒ飲料の三ツ矢サイダーなども生産。ビールの製造工程の他、工場での副産物や廃棄物の再資源化率100%実施への取り組みを見学。地上60mのアイムタワーでスーパードライなどの製造直後の生ビールを試飲しました。

神戸製鋼所 真岡製造所



神戸製鋼所 真岡製造所

国内最大級のアルミ圧延工場。自動車用パネル材、飲料用ボトル缶材などでは国内トップシェアを誇ります。熱間圧延以降のラインを見学しました。スクラップの使用量について、スクラップを使う一定の目標値があり、環境の変化にかかわらず過去から大きな変動はないとのことでした。

2016 Can-Artフェスティバル(北海製罐(株)主催) 北海道小樽市

9月17~19日の三日間北海道小樽市観光物産プラザ「運河プラザ(三番庫)」で開催されました。このイベントは、楽しく創造豊かな「あき容器アート」を通じて、あき容器のポイ捨てをなくし、分別処理やリサイクルの大切さをアピールする北海製罐(株)の環境活動です。今年は第24回で「自然環境を守るう!! 森の番人「フクロウ」」をテーマに作品が展示されました。当協会は出展し、リサイクルクイズなどを行いました。



夢の島オータムフェスタ2016 東京江東区

10月9、10日の二日間江東区の「夢の島熱帯植物館」で開催。今年から、表題のように名前を変えてスタートしました。当協会は出展し、リサイクルクイズなど実施し、10日(月)会場ステージにて、「タブはいっしょにリサイクル」をテーマに、タブの移り変わりを紹介し、タブは切り取らずにいっしょに回収するように発表しました。



協会からのお願い

- **切り取ったタブだけの回収はおやめください**
アルミ缶はアルミ缶を丸ごとリサイクルの方が安全で効率的です。タブだけを収集した場合、コンベアから、こぼれ落ちたりするのでリサイクルの工程で、特別な管理をしなければならぬことも理由のひとつです。
- **ボトル缶のキャップの取り扱いについて**
飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップを本体から外し、キャップ、本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切った上、キャップをしめて回収してください。
- **たばこの吸いがらをいれないで!**
アルミ缶に、たばこをいれたままリサイクルすると火災のおそれがありとても危険です。

第11回容器包装3R推進フォーラム in にっぽり 荒川区日暮里

11月11日(金)に「容器包装3R推進フォーラム」が開催されました。今年で11回目となるフォーラムは、容器包装の3Rと資源循環について福岡大学名誉教授の浅野先生を始め、経産省、環境省、農水省からの講演と自治体の事例発表、及びパネルディスカッションが行われました。



編集後記

去る10月27日NHK総合テレビの「所さん大変ですよ」で「リサイクル業者悲鳴!?」"プルタブ取るのはやめて" というタイトルでタブのみの回収についての番組が放送されました。アルミ缶のフタは当初プルトップ式でプルタブが飲み口といっしょに外れましたが、プルタブの散乱による環境面、安全面から1990年頃からすべて現行のステイオンタブ式になりフタから外れないタイプになりました。番組内でタブを集める効果が紹介されていますが、タブの変化・推移を理解いただきアルミ缶全体の回収に協力いただきたいと思います。

アルミ缶リサイクルニュース第137号

発行日 平成28年11月29日
発行人 森口 夏樹
編集人 大西 輝彦
発行所 アルミ缶リサイクル協会